

人権のあり方と視覚障害

良山中学校 三年

ぼくは、「人権」という言葉は知っていましたが、どういうものかくわしくは知りませんでした。そこで辞書で調べてみました。辞書には「人権」とは人間が生まれたときから、もっている生命・自由・平等などが保障される権利と記されていました。

ぼくは「保障される権利」と聞いてもよくわからなかったので家族に聞いてみました。母と話をする中で、学校に通えることや好きな職業をめざせること、病気になったときに病院へ行けること、そういう普通の事が出来ることが権利が保障されているからなのかもしれないと思いました。

ぼくの弟は、産まれた時から視力障害があつて、小さい文字が見えなかったり、視野が狭く見えていないことがあります。だからぼくは、小さい時から弟の世話をすることが多いのですが、何でもかんでもやってしまうと母から止め

られます。ぼくは「弟のためにやっけてあげているのに…」と不満に思うこともありましたが、母は「自分で出来ることは自分でさせないと弟のためにならない」と教えてくれました。

弟は教科書が見えないからと学校側において、拡大教科書や拡大鏡、特別支援学級を利用しています。弟は目が悪いからあたりまえだと思っていたのですが、そういう教材や道具や場所があることはあたり前ではなく、弟が他の人と同じように勉強が出来る権利が守られているからなのだと気づきました。

障害を理由に出来ないと決めつけて周りになんでもしてしまうと、自分で何も出来なくなるかもしれません。そう考えると、「自由や平等などが保障される権利」という言葉や母の言っていたことが少しわかった気がしました。ぼくが弟のためにしていることは、手助けしていると同時に弟ができることも先に先にとやっけるため、「やっけてあげる」という押しつけの手助けになっているのではないかと思いました。たんなる押しつけの手助けではなく、できると

ころは自分でさせて、できないところは出来るようになるようにサポートをする。自分で出来ることは自分ですするというのも人権であり、思いやりなのかもしれません。

人の役に立ちたいとか、人のために何かをすることはとても良いことです。しかし相手の意見を聞いたり、考えを尊重してサポートしないと、単なる自己満足になってしまいます。本当はどう思っているのか、何か手伝えることはないだろうか、何をしてほしいのか聞いて必要なことをするのが本当の優しさなのかもしれません。人のためにすることは、良くも悪くもいずれ自分自身に返ってくるのだから、自分がされて嫌なことは人にしない、周りが困っている時は率先して声をかけられる人になりたいです。

「人権」と聞くとすごく難しいことのように思いがちですが、意外と自分たちの身近なところにあることに気付きました。「自分の好きなことをしたり、他の人と同じように生活できる権利」それが、「人権」なのだと思います。